

自治医科大学形成外科学部門のご紹介

形成外科とは、身体に生じた先天性もしくは後天性の組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な悩みに対して、あらゆる手法や技術を駆使し、組織の機能をより正常に、また形態的にもより美しくすることによって、患者様の生活の質 "Quality of Life" の向上を目指す分野です。外科的な手法を多用しますが、外科診療領域とは別の独立した基本診療領域になります。

自治医科大学での標榜診療科としては、形成外科、小児形成外科、美容外科の3診療科があり、吉村浩太郎教授以下10名の臨床スタッフで診療を行っています。対象疾患としては、頭頸部・乳房再建、顔面神経麻痺、熱傷、難治性潰瘍(フットケア)、癩痕拘縮、ケロイド、皮膚・皮下腫瘍、顔面骨骨折、顎変形症、リンパ浮腫、口唇口蓋裂、指の先天異常、耳の先天異常、頭蓋縫合早期癒合症、眼瞼下垂、レーザー治療(あざ、しみ)、脂肪移植(再建)、さまざまな美容手術などがあげられます。

当科の研修には大きく3つの特徴があります。

一つ目は、偏りのない症例が数多く経験できるということです。都心の場合、研修施設は多いですが、各施設の得意専門分野に特化する傾向があり、経験できる症例が偏りがちになります。当院は栃木県の随一の特設機能病院であり、北関東や南東北から数多くの患者さんが来院されています。そのため対応する疾患の種類も多様であり、専

門医取得時にも経験症例不足で悩むことはありません。特に穿通枝皮弁を利用した腫瘍摘出後の再建手術、顎変形症に対する上下顎骨切り手術、及び乳房欠損に対する脂肪移植術やハイブリッド手術など、他施設ではなかなか経験出来ないような症例も数多くあります。

2つめは、自治医科大学にはとちぎ子ども医療センターという、小児専門医療の施設があるため、先天異常の患者を多く経験できることです。すなわち、様々な種類の重症の頭蓋骨早期癒合症、重度の口唇口蓋裂、小耳症をはじめとする耳介変形・欠損、手指・足趾の先天異常など、小児形成外科を深く学び習得することができます。先駆的治療も多く、例えば、顔に全く傷を付けることなく頭蓋骨、顔面骨を移動させ、さまざまな先天異常を修復する治療(MCDO法)を行っています。

3つめは、充実した研究施設であるということです。当施設は臨床研修だけでなく、基礎研究や大学院での教育にも力を入れています。再生医療、創傷治癒、ケロイド・癩痕の治療をはじめとするテーマで、研究専門の研究員(ポスドク)やスタッフ(技術補助員など)を雇用して、先駆的な研究を数多く行っています。専門医を習得した後に大学院に入り、研究に邁進することも可能ですし、希望があれば、後期研修中も臨床と研究を両立させ、科学論文や博士学位取得のための研究に参画することも可能です。さらに、海外の医師や研究者との国際的な交流も活

発であり、国際学会に参加、発表する機会も多く、海外留学も積極的にサポートしています。

自治医科大学の卒業生は出身県での義務研修があり、基本的には当院に残ることができません。そのため、他大学出身者が同じ条件でスタートする立場であり、自由闊達な環境の中で研修に励むことができます。

2012年に完成した新しいレジデント用宿舎は、完全個室で、インターネット回線、大浴槽、トレーニングルームなど施設も充実しています。

(<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/early/house.html>)

見学希望者の皆様をお待ちしております。
説明会も随時行っております。

【形成外科学部門のホームページ】当科の対象疾患の詳細に関しては<http://www.jichi.ac.jp/keisei/>をご覧ください。

【卒後臨床研修センターのホームページ】新専門医制度の案内や募集についての情報が掲載されています。
<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

【見学などのお問い合わせ】

吉村浩太郎 yoshimura@jichi.ac.jp

電話 0285-58-8940